

# CASBEE®広島

■使用評価マニュアル: CASBEE 広島 2016年版

使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

## 評価結果

<b>1-1 建物概要</b>		<b>1-2 外観</b>	
建物名称	(仮称)ブランシエラ広島西蟹屋 新築	階数	13
建設地	広島市南区西蟹屋3丁目327-3他	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準工業地域	平均居住人員	0 人
地域区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2020年8月26日
敷地面積	2,022 m <sup>2</sup>	作成者	市井智司
建築面積	677 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	5,763 m <sup>2</sup>	確認者	

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

<b>2-1 建築物の環境効率(BEEランク&amp;チャート)</b>	<b>2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)</b>	<b>2-3 大項目の評価(レーダーチャート)</b>
<p>BEE = 0.8</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p> <p>環境品質 G</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 86%</p> <p>③上記+②以外の 86%</p> <p>④上記+ 86%</p> <p>(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

<b>2-4 中項目の評価(バーチャート)</b>		
Q 環境品質 <b>Qのスコア = 2.6</b>		
<b>Q1 室内環境</b> <b>Q1のスコア = 3.1</b> 	<b>Q2 サービス性能</b> <b>Q2のスコア = 2.7</b> 	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> <b>Q3のスコア = 1.8</b> 
LR 環境負荷低減性 <b>LRのスコア = 3.0</b>		
<b>LR1 エネルギー</b> <b>LR1のスコア = 3.4</b> 	<b>LR2 資源・マテリアル</b> <b>LR2のスコア = 2.5</b> 	<b>LR3 敷地外環境</b> <b>LR3のスコア = 2.9</b> 

<b>3 広島市の重点項目</b>		
重点項目の総平均スコア = <b>2.9</b>		
<b>「地球温暖化対策」の推進</b> スコア = <b>3.2</b> <b>設計の計画し特段に配慮した事項</b> // 熱効率の高い設備機器を採用、階高を高めにし設備の更新性に配慮 /// 熱効率の高い設備機器を採用	<b>「ヒートアイランド対策」の推進</b> スコア = <b>1.6</b> <b>設計の計画し特段に配慮した事項</b> /	<b>「長寿命化対策」の推進</b> スコア = <b>3.0</b> <b>設計の計画し特段に配慮した事項</b> / 設備配管にさや管工法を採用するなど、設備の更新性に配慮

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される